



〔総務省「統計でみる都道府県のすがた2022」より〕

項目	千葉県	順位	備考
財政力指数	0.779	5	
住民税	127,400円	5	人口1人当たり
老人福祉費	162,400円	47	65歳以上1人当たり
児童福祉費	481,300円	36	17歳以下1人当たり
保育所等数	409.4カ所	39	5歳以下10万人当たり
医師数	194.1人	45	人口10万人当たり
看護師数	731.9人	45	人口10万人当たり
一般病床数	799.7床	44	人口10万人当たり
教育費	117,600円	45	人口1人当たり
図書館数	23.0館	40	人口100万人当たり
公民館数	46.0館	43	人口100万人当たり
都市公園	6.85㎡	44	人口1人当たり

※「順位」は都道府県の順位

め、を構一「にるで1葉もこ県設路高の
す、す想間県都するようれ時市千から内、の建道
三すす」三都するようれ時市千から内、の建道

それを見ると、千葉県は財

無駄遣いがあります。

いま千葉県が力を入れているのが

総務省が毎年2月に「統計でみる都道府県のすがた」という統計表を公表しています。この最大の特徴は、400を超える項目ごとに、「人口一人当たり」などの指標にもとづいて都道府県に順位を付けていることです。これをみると、千葉県は財政力指数では5位なのに、人口当たりの医師数や看護師数は45位、教育費も45位で最下位クラスです。老人福祉費にいたっては47位と文字通り最下位です（左表参照）。この背景に、大規模開発の

総務省が公表している「統計でみる都道府県のすがた2022」を見ると、千葉県はトップクラスの「財政力」がありながら、医療や福祉、教育の指標は軒並み最下位クラスとなっており、歪んだ税金の使い方が浮き彫りになっています。

医療・福祉・教育は最下位クラス

千葉県の財政力は都道府県で5位なのに

番瀬を横切る第2湾岸道路や野田市と千葉市を結ぶ千葉北西連絡道路など、高速道路を張り巡らせようとしています。この大規模開発を決めているのは知事と県議会の多数派で、ここを変えれば、千葉県の大きな力を暮らしや福祉に回すことができます。

保険料値上げ軽度者外しケアプラン有料化 厚労省が介護保険制度見直しの論点を提示

厚生労働省が10月31日に示した介護保険制度見直しの概要は以下の通りです。

■「軽度者」外し

要介護1、2を「軽度者」として保険給付から外し、市区町村が運営する「総合事業」へ移行させようとしています。すでに要支援1、2は

■利用者負担増

現在、利用者負担は原則1割ですが、一定所得以上の2割3割負担の対象者を拡大しようとしています。

■納付引き下げ利用引き上げ

保険料は40歳から納め、サービス利用は原則65歳からですが、納付年齢の引き下げと、利用年齢の引き上げが盛り込まれました。

■老健多床室保険外し

制度開始時に保険給付対象だった特養ホームなどの部屋代を、保険給付から外しました。

■ケアプラン有料化

ケアマネジャーが作成する介護計画（ケアプラン）はこれまで無料ですが、論点に有料化を盛り込みました。

■補足給付削減

施設の食費・居住費を減額する補足給付制度。昨年の収入・資産要件改悪に続いて、金融資産や不動産を要件にすることを論点に入れました。

■保険料負担増額

低所得者の負担増を抑えるために、国の負担を増やすのではなく「高所得者」の負担の引き上げが示されました。

日本共産党演説会で小池晃書記局長が訴え

10月29日、船橋市内で日本共産党演説会が開かれました。小池晃書記局長が訴え、来年4月に予定されている県議会議員選挙に向けて丸山慎一前県議が決意表明。市議選挙では、岩井友子、金沢和子、松崎さち、坂井ようすけ、神子そよ子、佐川長、かなみつ理恵の各氏が、それぞれの思いと決意を語り、「声をあげ、力を合わせて政治を変えよう」と呼びかけました。



演説会に参加者に決意を示す。10月29日・船橋市内